

科目名		有害業務管理学特別論文指導	
科目責任者	大神 明	(作業関連疾患予防学 教授)	
担当者	岡崎 龍史	(放射線衛生管理学 教授)	
担当者	川波 祥子	(産業医実務研修センター 教授)	
担当者	香崎 正宙	(放射線衛生管理学 講師)	
担当者	安藤 肇	(作業関連疾患予防学 学内講師)	
開講時期:	1～3年次	単位数:	8 単位
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>有害業務管理において問題となる職業性疾患あるいは作業関連疾患の病態モデルや、スクリーニングモデル等の分子生物学的手法による病態解析、フィールド調査、生理学的研究などによる知見を集積し、病態解明や予防対策に関する論文を作成して総合的な研究を自主的に推進する。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 有害業務管理における問題点を自ら見いだすことができる。 2) 作業関連疾患の諸テーマについて疫学的手法を用いて解析手法を自ら見いだすことができる。 3) 分子生物学的手法を用いて作業関連疾患・職業性疾患に対するアプローチ手法を自ら見いだすことができる。 4) 放射線曝露の健康影響についての自分のテーマの解析を主体的に実施できる。 5) 放射線曝露の健康影響についての自分のテーマの結果について主体的に論述できる。 6) 作業関連疾患に関する自分のテーマの解析を主体的に実施できる。 7) 作業関連疾患に関する自分のテーマの結果について主体的に論述できる。 8) 国内外の有害業務管理について疫学的・分子生物学的アプローチの意義を主体的に論述できる。 9) 健康障害要因に対する疾病対策等の効果検証、介入を行うことができる。 10) 産業医学実装科学に関する自分のテーマの解析を主体的に実施できる。 11) 産業医学実装科学に関する自分のテーマの結果について主体的に論述できる。 			
● 評価方法	プレゼンテーション30%、討論参加30%、論文レポート作成40%等で総合評価する。		
● 参考文献	指導の中で適宜指示するが、基本的に自らの積極的な文献検索を通じて情報の集積を行うこととする。		

● 授業計画(適宜個別対応)

内容	担当教員
自らがテーマとするところを見だし、科学的論理思考に沿って研究デザインが設計できるよう指導を行う。	大神 岡崎 川波 香崎 安藤
討論会や検討会でのプレゼンテーションを通じて、科学的論理の構築やコミュニケーション能力についてのスキルアップを図る。	大神 岡崎 川波 香崎 安藤
研究結果に基づく論文制作を積極的に支援し、指導を行う。	大神 岡崎 川波 香崎 安藤

● 授業内容

<p>(概要)</p> <p>有害業務管理における作業関連疾患及び放射線を中心とした職業性疾患予防について、自ら研究テーマを見出し、得られた結果について、データの妥当性や信頼性を検証し、問題の分析、調査、論理的思考能力を養う。論文の執筆においては、論文の独創性・科学的意義を基本として、結果から導き出される新たな事実を発見し、纏め上げる能力を養成することに力点を置く。</p> <p>(大神明、安藤肇)</p> <p>様々な要因によって引き起こされる作業関連疾患について、対象となる範囲とその疾患の基本的な病態、就業との関連、発症及び進展予防に資する対策について理解し、労働者への作業関連疾患発症を未然に防ぐための現場での有効な対応並びに教育の方法を指導する。特に作業現場での、作業管理・作業環境管理・健康管理の各管理に基づいて、論理的かつ系統的なデータ取得方法について、カンファレンスや抄読会などを通じて指導を行う。また、国内外の学会発表の参加を積極的に奨励し、プレゼンテーションスキルの向上を図る。</p> <p>(岡崎龍史、香崎正宙)</p> <p>放射線衛生学における放射線被曝の歴史と今後東京電力福島原子力発電所事故並びに廃炉作業に携わる従業員の低線量放射線被曝の影響について考えていく上で、具体的に出たデータをまとめ、放射線影響を論理的に解析できるように指導する。放射線障害に関するカンファレンス、抄読会等を介してプレゼンテーションやコミュニケーション能力の更なる充実化を図るとともに、自身の研究テーマと様々な放射線障害の特徴等の整合性等を主体的に検証させ、報告書や論文における考察する能力を養う。研究テーマにおいて得られた結果のまとめ方の論文作成を主体的に行なわせ、科学的論理思考が十分に養成できるよう指導を行う。</p> <p>(川波祥子)</p> <p>有害業務等の健康障害要因による疾病を予防する対策について、研究を通じエビデンスを確立し、それを職域で実践し効果を検証する一連のプロセスを習得させる。研究テーマに関連する領域についてカンファレンスや抄読会での討議、学会発表を通じてプレゼンテーションやディスカッション能力を高め、論文作成を通じて科学的論理思考を養成する。研究実施から論文作成まで主体的に取り組むことで、自立した産業医学の実践者、研究者となるよう指導する。</p>
